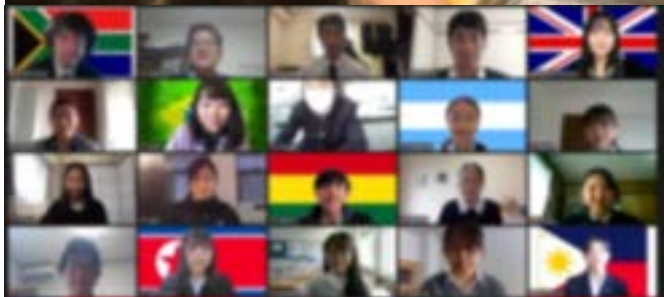


第5回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN)

All Japan Educational Model United Nations

大会報告書



開催日：2021年 8月7日(土)・8日(日)

場所：オンライン会議システム (zoom)

高校生の

高校生による

高校生のための模擬国連

目次

大会実行委員長より	．．．．．	3
大会セクションリーダーより	．．．．．	4
大会概要	．．．．．	6
今大会の特徴	．．．．．	7
賞受賞者一覧	．．．．．	9
各議場講評	．．．．．	11
参加者アンケート集計結果	．．．．．	26
大会事務局長より	．．．．．	29
参加校一覧	．．．．．	31
大会実行委員一覧	．．．．．	32
大会役員一覧	．．．．．	33
主催・後援・助成・協賛企業一覧	．．．．．	34
次年度大会の案内	．．．．．	35

大会実行委員長より

大会実行委員長 渋谷教育学園渋谷高等学校 2 年 高槻 俊輔

皆様、この度は第 5 回全国高校教育模擬国連大会に参加していただき、誠にありがとうございました。

前回大会に引き続き本大会も新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑み、オンライン開催を余儀なくされました。しかしながら、困難な社会情勢の中でもこうして模擬国連活動を継続出来ているのは非常に幸運なことであると強く感じます。また、大規模な大会を滞りなく開催し、こうして成功を収めることが出来たのは一重に運営活動を支援して下さった先生方、スポンサーの皆様方、実行委員の皆さんのおかげであると感じております。今一度深く感謝申し上げます。

本大会の大きな特徴の 1 つとして、全日本大会や他の練習会議とは異なり、競技としての模擬国連ではなく名前にもある通り教育活動としての模擬国連により焦点をあてたものであるという点が挙げられます。普段の生活であまり直接的には意識しない議題に対して、自分の持つ価値観と担当国の価値観との相違を経験しながら国際問題へ俯瞰的な知見を得、また実際に会議で全国各地から集まる様々な大使と会うことで、会議の進行方法や政策の立案方法など模擬国連自体に関する理解を深めるきっかけになるなど、皆さん一人一人に何かしらの新たな学びがあれば幸いです。

同時に AJEMUN は「高校生の、高校生による、高校生のための模擬国連」という理念のもと模擬国連活動の普及を目的に、第 1 回大会から広く高校生を巻き込んだ大会となってきました。その積み重ねの結果として、本大会が 7 議場にも及ぶ大規模な大会となり、高校生模擬国連活動の活性化に資することが出来たことを非常に嬉しく思います。

最後になりますが、本会議は模擬国連活動の変容を強く感じる会議となりました。コロナウイルス感染症の影響により対面会議が中止となり、オンラインでの開催方法が模索され始めた頃と比較すると全国レベルでオンライン会議が浸透し、同時にプロシージャールも最適化されてきたように感じます。対面会議の頃とは外交の有り方や会議の流れが大きく変わり、模擬国連という活動自体が時代の流れを受けて姿を変えるものなのだと痛感しました。

来年の開催形態が本年のようにオンラインとなるのか、対面会議となるのかは現時点では判断が付きませんが、ぜひ本会議で得た学びを活かし、模擬国連活動を楽しんでいただければと思います。

大会セクションリーダーより

フロントセクションリーダー 大妻高等学校 2 年 阿野 咲

第 5 回全国高校教育模擬国連大会のフロントセクションリーダーを務めさせて頂きました、大妻中学高等学校 2 年の阿野咲です。約 3 ヶ月間フロント一同 BG、会議細則を始め様々な資料の作成に取り組んでまいりました。今会議は昨年同様、オンライン開催となりましたが大会の参加者数は最多となり多くのもぎコッカーの方と関わる事が出来ました。私自身対面で色々な方に関わることを楽しみにしていましたが、オンラインであったにも関わらず期待以上のものが得られました。

フロントセクションは当日までの準備に加え当日は議長、会議監督など議場ごとにわかれ役割を担いました。仕事量が多く、責任を感じるほどこうして AJEMUN のメンバーとして参加していることにとてもやりがいを感じる事が出来ました。そして 3 ヶ月を通して一緒に準備をしてきた同じ大会実行委員、そして同じ議場で最後まで支え合ったフロントのメンバー、この大会で出会った実行委員を含め多くの先生方にとっても感謝しています。全国大会規模のこの AJEMUN は決して 1 人の力で動いているわけではありません。無事開催し、二日間大きなトラブルもなく終えられたことがこれほどまでにも嬉しいものかと実行委員をしていて誇りに思いました。

この大会で参加者の方は会議や交流会を経て多くの良き友と出会えたことでしょう。一人一人があ国の大使みたいに、あの実行委員のようになりたいと憧れを持ったことと思います。ぜひその気持ちを忘れないでください。この場で知り合えた友は模擬国連を深めていく中で良い影響をもたらすことでしょう。そしてこの大会に参加し児童労働について話し合ったことに誇りを持って下さい。大会を通して感じた後悔は次につながる良い糸となると思います。やがて自信に変わりさらに模擬国連を楽しんで参加できる日が来ると願っています。

最後になりましたが本大会に協賛、ご協力していただいた皆様、及び顧問の先生、参加者の皆様に心より御礼申し上げます。また他の機会にお会いできることを楽しみにしております。そしてこの AJEMUN が今後より良い大会になることを切に願っております。

運営受付セクションリーダー 浅野高等学校 2 年 西島 樹

第 5 回全国高校教育模擬国連大会の運営受付セクションリーダーを務めさせていただきました、浅野高等学校二年の西島と申します。

今大会は、史上最多の議場数となり、運営受付セクションも例年通りにはいかないこともありましたが、無事に閉会することができ、安心しております。運営受付セクションのメンバーと顧問の先生、大会事務局の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

参加された大使の皆様、今大会にご参加いただきありがとうございました。模擬国連では、担当国は会議毎に異なりますので、皆様が再度同じ国を担当する機会は、今後の活動の中でないかもしれません。また、今回の議題に関して、あるいはその国や関係する国の

情勢に関して、今回のような視点で関わる機会は、これからの人生においても、多くはないかもしれません。だからこそ、ぜひ今大会を通じて大使として感じたこと、考えたことを大切にしていきたいと思います。また、皆様の中から一人でも、来年も参加したい、来年は実行委員として参加したい、と思ったださる方がいらっしゃれば幸いです。

今回初めて会議に運営として携わり、大会準備から閉会後の報告書の作成まで、様々な仕事を行いました。大使の皆様同様、今大会を通じ、様々な経験をさせていただきました。本当に多くの方が、大会の運営に関わっていることを改めて感じるとともに、活発な大会には、ご参加いただいた大使の皆様の努力の存在が最も重要であると認識いたしました。今大会では、史上最多の参加者数となり、全国から多くの大使の皆様がご参加いただけたこと、本当にうれしく、そして、ありがたく思います。大使の皆様、実行委員の皆様、大会の開催に協力してくださった、後援・協賛の皆様、大会事務局の皆様、ありがとうございました。

情報テクニカルセクションリーダー 玉川学園高等部2年 佐鳥 丹久朗

皆さんこんにちは。第5回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)の情報テクニカルセクションリーダーを務めさせていただいた玉川学園高等部2年の佐鳥丹久朗です。まず、本大会に参加してくださった高校生並びに各校顧問の方々、後援・協賛・協力企業の方々、役員の先生方、そして大会に関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この情報テクニカルセクションは昨年度の第4回大会からオンラインのトラブル対応、HPの開設及び更新を行うセクションとして設けられました。昨年度の委員の方からの引き継ぎ、セクション担当の三浦先生、そして情報テクニカルセクションのメンバーの積極的なサポートによって円滑に準備を進めることが出来ました。さらに会議当日もオンラインでの模擬国連開催になれている大使の方も多かったことや事前に行われた接続練習会に多くの大使の方が参加してくださったことにより、予想以上にトラブルが少ない印象を受けました。数少ないトラブルもセクション内で役割分担して円滑に対応できました。

今大会は高校生の高校生による高校生のための模擬国連大会というキャッチフレーズの下、先生方のお力をお借りしつつも、会議を高校生主体で開催しました。さらに全国各地からたくさんの高校生が大使として参加をしてくださいました。このような素晴らしい大会に情報セクションリーダーとして関わったことは非常に光栄に思います。

最後に、このような貴重な経験、そして良い刺激を与えてくれたこのAJEMUNが、今後ともオンライン・対面に関わらず、どのような形であれ続いていくことを切に願っております。

第 5 回大会概要

大会名 : 第 5 回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN)
開催日時 : 2021 年 8 月 7 日 (土) ・ 8 日 (日)
開催方法 : オンライン (Zoom を使用)
議場方式 : ハーバード形式 (全日本高校模擬国連大会と同じ方式)
議題 : 児童労働
使用言語 : 日本語
参加費 : 無料
主催 : 全国中高教育模擬国連研究会 (全模研)

【大会スケジュール】

1 日目 : 8 月 7 日 (土)		2 日目 : 8 月 8 日 (日)	
10:15	開会式	9:30	接続開始
10:45	各議場 Zoom の接続開始	10:00	会議開始
11:00	会議開始	11:45	昼食
12:30	昼食	12:30	会議再開
13:15	会議再開	14:30	DR 提出
15:15	WP 提出	14:40	完全休憩
15:30	完全休憩	15:00	会議再開
15:50	会議再開	15:50	会議終了
16:40	会議終了・諸連絡	16:00	閉会式
		16:30	閉会式終了

今大会の特徴

運営受付セクションリーダー 浅野高等学校 2 年 西島 樹

今大会のスローガンは、「高校生の」「高校生による」「高校生のための」大会である。今大会はまさに、そのスローガンを体現する大会となるため、以下の特色を有している。それぞれに分けて説明していく。

「高校生の」模擬国連。

フロント側が決定することが多い受賞者を、今大会では、大使が相互に評価し、大使の評価に基づき最優秀賞・優秀賞の受賞者を決めた。実際に会議に参加した大使自身が、自らを含め会議に参加した大使を評価し、再考することで、会議の公平性を担保し、「高校生の」大会を実践できたと考える。

「高校生による」模擬国連。

今大会では、参加者だけでなく、実行委員も高校生により構成された。当日に至るまで、フロントセクション、運営受付セクション、情報テクニカルセクションが、それぞれの準備を進めるとともに、協力して、円滑な開催を目指した。フロントセクションは、当日の議事進行を務めるとともに、BG への補足を用意する等、会議前からの活動にもあたった。運営受付セクションでは、プログラムの作成等の準備を進めるとともに、当日は、開会式やフロントの手伝いにあたった。最後に、オンラインにおける開催となるに伴って、情報テクニカルセクションが昨年度に引き続き設置され、接続練習会を事前に開催し、当日はトラブルの対応にあたった。それぞれの高校生のセクションが、大会の運営を行った。

「高校生のための」模擬国連。

今大会は、高校生の参加の為に開催された大会であった。通常、模擬国連は英語を通じた議論が行われ、スピーチや WP、DR（成果文書）では、英語の使用が必要なものが多い。しかし、高校生については、英語能力等に差があり、日本語での議論しかできないため、議論に参加できない大使が存在することを想定し、そのような状況を防ぐために、本大会では、日本語のみを使用する大会とし、英語での議論が難しい高校生にも、模擬国連の議論に参加できる大会とした。

また、会議の議場では、初級者議場と一般議場を設置した。初級者には、模擬国連に関する説明を行いながら会議を進行した。また議場を分けることで、経験者だけが台頭するのではなく、初級者も臆することなく、自らの意見を述べ、議論に参加しやすい環境を準備できたのではないかと思う。

今大会の特徴—オンライン開催に関して—

これまでの AJEMUN 大会は、第 3 回までオフラインでの開催を行ってきた。

今大会ではオンライン化に伴い、昨年同様情報テクニカルセクションを設置した。実行委員は、情報テクニカルセクションが zoom のトラブルなど様々な情報技術面でのトラブルを、LINE を通じて回答するなどの対策を取ってきた。これらは、オンラインでの参加に不慣れな高校生でも参加できるようにされた対策であり、実際の会議中にも相談は寄せられた。また、事前に接続練習会を実施し、参加希望の生徒を対象に情報テクニカルセクションがサポートをおこなった。

実際に参加した大使からは、「全国から参加者が集まるという点」や「地方でも気軽に参加しやすかった」などの前向きな意見も存在し、オンラインにより全国から参加者が集まりやすかった点が指摘された。

また、個人のコミュニケーションや資料に関しても、「資料を確認しやすかった」「やり取りが文字に残って分かりやすかった」といった意見が存在し、オンラインのほうがやりやすい部分もあることが分かった。

一方で、「カメラ機能も音声機能もオフにして何も発言しない大使ができてしまう点」や「わざわざミュートを切らなければならないことで主張しづらい空気があった。」などの意見が寄せられ、模擬国連で極めて重要である「大使同士の話し合いが十分にできない」などの課題が存在することが分かった。（アンケート結果参照）

また、「通信環境やパソコントラブルに大きく制限させられること」など、機材によっても参加が難しくなることが分かった。

アンケート結果を見る限り、オンライン模擬国連のみ参加経験のある生徒が多数おり、「オンラインの方が経験しているのでオンラインの方がやりやすかった」など、オンラインでの大会に慣れている生徒が増えていることも考えられた。

賞受賞者一覧

賞受賞者一覧（一般議場）

【A 議場】

最優秀大使賞

Canada	海城高等学校	加悦 成晃・市川 義之助
--------	--------	--------------

優秀大使賞

Iraq	浅野高等学校	和田 大輝・角田 遼一郎
------	--------	--------------

Saudi Arabia	渋谷教育学園幕張高等学校	浜中 拓夢・表 真由
--------------	--------------	------------

Uzbekistan	聖心女子学院高等科	河島 玲奈・飯島 ひかる
------------	-----------	--------------

実行委員特別賞

Germany	大谷高等学校	衣川 拓馬・出田 賢芯
---------	--------	-------------

【B 議場】

最優秀大使賞

Yemen	海城高等学校	島村 昂寿・土屋 哲史
-------	--------	-------------

優秀大使賞

Albania	駒場東邦高等学校	小野 悠真・角坂 真伸
---------	----------	-------------

Brazil	浅野高等学校	鈴木 理仁・伊藤 公平
--------	--------	-------------

South Africa	渋谷教育学園幕張高等学校	山下 実穂・笹尾 佳音
--------------	--------------	-------------

実行委員特別賞

Sweden	頌栄女子学院高等学校	田中 心・西川 果怜
--------	------------	------------

【C 議場】

最優秀大使賞

DPR Korea	海城高等学校	内田 紘輔・梶田 啓太郎
-----------	--------	--------------

優秀大使賞

Australia	渋谷教育学園幕張高等学校	森田 耕生・篠塚 颯汰
-----------	--------------	-------------

Haiti	頌栄女子学院高等学校	小縣 葵・松本 彩
-------	------------	-----------

Norway	渋谷教育学園幕張高等学校	金城 芽依・水谷 泰我
--------	--------------	-------------

実行委員特別賞

Ghana	晃華学園高等学校	玉岡 柚子香・荻野 友里菜
-------	----------	---------------

賞受賞者一覧（初級者議場）

【D 議場】

最優秀初級者賞

Ethiopia 山形県立山形東高等学校 高橋 苺梨・小関 脩子

優秀初級者賞

Argentina 東京女学館高等学校 江面 葵・引地 真愛

Moldova 佼成学園女子高等学校 斉藤 詩苑・坪内 夢緯

実行委員特別賞

Nigeria 十文字高等学校 岡野 美菜・中尾 唯花

【E 議場】

最優秀初級者賞

Norway 松本秀峰中等教育学校 村木 裕太・佐藤 伊吹

優秀初級者賞

Egypt 大妻高等学校 佐藤 瑠奈・川田 あめり

Kenya 佼成学園女子高等学校 長谷川 里桜・宮下 希彩

実行委員特別賞

Italy 清教学園高等学校 川見 菜緒・笠原 葵

【F 議場】

最優秀初級者賞

France 東京女学館高等学校 神作 真由・岡本 璃央

優秀初級者賞

Myanmar 松本秀峰中等教育学校 三代澤 咲・津村 彩

United States of America 名古屋高等学校 三輪 隼聖・高安 俊希

実行委員特別賞

India 松本秀峰中等教育学校 上條 響己・川久保 勝晟

【G 議場】

最優秀初級者賞

Afghanistan 逗子開成高等学校 佐藤 司悠・菊池 星南

優秀初級者賞

China 東京女学館高等学校 遠藤 七海・櫛本 瑞乃

Italy 名古屋高等学校 岩上 紘大・中野 慶人

実行委員特別賞

Mali 三田国際学園高等学校 若松 虹凜・松島 響

各議場講評

各議場講評（A 議場）

【フロントより】

オンラインでの大規模な会議ということもあり、会議序盤は大使の発言が重なり議場が混乱する場面がいくつか見受けられました。しかしながら、その後短時間で全ヶ国が納得のできる形にグルーピングが決定され、参加した各国大使のレベルの高さを感じました。

またアンモデの議論は概して特定の大使に発言量が偏ることなく各国から満遍なく意見が抽出され、全ての大使がお互いの立場や主張を尊重し、取り残される大使が生まれないよう丁寧に会議が進行される素晴らしい会議であったと感じました。

初日は3本のWPが提出され、残念ながらうち1本は提出時刻の遅れにより不受理となりましたが、提出のあったものはどれも議論の内容が網羅的に盛り込まれ、2日目のDR提出を見据えたものが作成できていました。2日目は2本のDRの提出があり、両者ともWPの段階で注意を受けた体裁上の問題が修正され、また内容も具体的な行動主体に言及するなど現実的なものに昇華されていました。また、両DRともコンセンサスにより採択されたことから、自グループの利益のみを追求するのではなく国際益を意識し交渉において他グループに働きかける努力が相当量あったことが伺えました。

全体的にレベルが非常に高く、フロントとしても感服した会議ではありましたが、今後のさらなるレベルアップのために2点改善点を挙げさせていただきます。1点目は文言の作成方法です。アンモデを拝見したところ、本会議での文言作成方法は主に各国がフリードキュメントに用意していた政策の文言を貼り付け、リーダー国の進行のもと内容を吟味し適宜質疑応答を挟む形でした。各国の意見に確実に焦点があてられることは間違いなく大きな利点ではありますが、同時に政策発信が簡単であるがゆえに情報が氾濫し話し合いが停滞してしまうというリスクも孕んでいます。論点が包括的で境界線が分かりづらかった関係上似たようなもので分類し、普段の会議以上にまとめる作業が困難であったことは重々承知していますが、オンライン会議につきものである情報量の多さに常に留意することで、より余裕のある決議案作成が可能になるかと思います。

2点目は外交の動き方です。本会議は全体的に、会議のどのタイミングでも各グループ間で情報共有が行われ、外交自体は活発に動いていた印象を受けました。しかしながら、厳しく言えば情報共有に終始した外交がほとんどで、実際に各グループ間のコンバイン交渉に繋がっている印象は薄いように思われました。伝えた情報を相手にどのように活用して欲しいのかを意識し、また議場全体でのタイムラインを統一し、外交と内政の両軸を平行して進めるなどの役目を、特にグループの進行をしていた国以外が主体的に果たせると、会議としてさらに一段レベルの高いものになったでしょう。

僭越ながら、フロントからの講評とさせていただきます。

【最優秀大使コメント】

Canada 大使 海城高等学校 加悦 成晃・市川 義之助

今回カナダ大使で最優秀賞を取らせていただきました、海城中学高等学校 5 年の加悦成晃・市川義之助ペアです。最初に、オフラインでの開催が困難な中でもオンラインという開催方法で今年も AJEMUN を開催してくださった大会実行委員の方々、スポンサーの方々に感謝申し上げます。また、オンラインという場ではありましたが 2 日間、ともに会議をしてくださった A 議場の方々、ありがとうございました。

さて、ここでは受賞者の感想を書くということでしたが、まず市川が模擬国連の面白さについて書きます。それは、普段とは全く異なる価値観に出会い、毎回必ず驚くことです。

今回の会議において(も)いつもの練習会よりは多めに事前に児童労働という議題や自国のリサーチをしてきたつもりでした。そして、どの国もある程度こういう政策を出すだろう、と NP を見つつ予測して会議に臨みました。しかし、会議当日になると予想もしてなかった論点や政策が次々と出てきてびっくりしました。例えば、先進国の大使の方からの難民は社会的弱者に陥りやすく児童労働に従事させられる傾向が高いから適切な支援が必要だ、という提案には各国の現状が先進国によっても違うことを認識させられましたし、途上国の大使の方から単に教育施設を拡充するだけでなく教育を増やすための通学路(インフラ)整備などの教育を受けられるような環境整備が必要だといわれると、とても重要なものに見落としていたので納得し驚きました。

模擬国連に参加する際は、徹底的に BG を読みリサーチをしているつもりですが、必ず毎回自分が想像していなかった論点や価値観が提示されて、なるほど、そういう考え方もあるのか、と感じさせられます。自分が調べたこと以上に奥深い議題を高校生が模擬する難しさを感じさせますが、異なる価値観に他の大使を介して触れることによって自分の中の世界が少し広がったようにも感じられてすごく楽しくなります。これが僕の考える模擬国連の面白さの一つだと思います。

次に、上記の感想とは打って変わって少しカジュアルに加悦が感想を書きます。

感想の前に僕が普段の会議から大事にしていることを書きます。それは、「過度に具体策に頼りすぎないようにする」ことです。我々が主に模擬しているのは、総会やまたそれに準ずるような大きい規模の会議です。具体策ももちろん議論すべきとは思いますが、模擬国連のような短い時間の中では次につながるような重要な意見の一致をとるべきだと僕は考えています。もちろん、必ずしもそれが良いとは考えていませんが、考え方の一つとして考えてくれると嬉しいです。

感想は、率直に言ってレベルが高いという言葉に尽きると思います。NP の時点で去年よりレベルが高いな、と僕は感じました。その感覚はやはり当たっていました。そのため、初日の昼休みにペアと話し合った内容は「みんな強すぎてやばい」でした。その中で最優秀賞に選んでもらったことはとても光栄で、これからの会議への自信へとつながると感じています。

最後になりますが、今回の A 議場のようにレベルが高く、やりがいのある会議で皆さんとまたお会いできることを楽しみにしています！



A 議場の皆さん

各議場講評（B 議場）

【フロントより】

今回議長を務めさせていただきました、海陽中等教育学校 5 年の中島大雅です。

二日間お疲れ様でした、そして受賞された大使の皆様おめでとうございます。

さて私は今、会議の余韻に浸りつつこの文章を書いているのですが、振り返ってみると短い、しかし濃厚な二日間であったように思います。会議本番にベストパフォーマンスを発揮できるよう 5 月からフロント一同で進んできました。

大使の皆様も自国の現状や政策のリサーチ、どのような会議行動が自国の利益に繋がるかといったことを準備されてきたと思います。しかしどれだけ多くの事を調べたとしてもそれを他国に向けて主張できるのは二日間の会期、それも公式に記録されるのは公式討議と成果文書のみです。そして、この少ないチャンスを最大限活用できるのが強一大使だと私は思います。自国の主張を声高に叫ぶことだけが強一大使なのではなく、自分に合った会議行動を実行できたかが、この会議における成功だったのではないのでしょうか。

最後に、この大会に限らず模擬国連は賞をとることのみがゴールではありません。模擬国連における賞は、あくまで論理的に話す力、戦略を立てる能力などを測る基準で選ばれます。皆さんには模擬国連「を」学ぶのではなく、模擬国連「から」学んで頂ければと思います。

2 日間お付き合ひ下さりありがとうございました。この会議から皆さんが何か一つでも

得たことがあれば運営冥利に尽きます。

この度会議監督を務めさせていただきました、大妻高等学校 2 年の山本晴菜です。

B 議場は一般議場ということもあり活発な議論がかわされていました。特にアンモデでは多くの大使が積極的に発言し、自国の国益を最大限に守ろうと努力している様子も見られました。実際、可決された DR や受理されなかったもののフロントで受信した DR によく反映されていたと思います。モデにおいても大使が自国の意見だけでなくそれまでの総括もされ、フロントがまとめを入れずともスピーディーに会議が進行したこともレベルの高い会議ならではの事です。

文書に関しては初日の WP が 4 本、二日目の DR が 1 本でした。二日目の DR は前述通り二つの DR を受信しましたが片方は提出時刻に間に合わず不受理となりました。不受理となった DR のスポンサーの皆さんは残念な思いをされたと思いますが、皆さんが議論された事実は変わりませんので気を落とさず今回の経験をこの先に活かしていただければ嬉しいです。

ただ総観してとてもレベルの高い会議でしたが、一部一国の代表として望ましくない行動をも見受けられましたので今後気をつけていただけると幸いです。

二日間を通してフロントとして多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。最後に、今大会の開催に向けて尽力してくださった先生方、協賛各社の皆様、実行委員そして大会に参加していただいた参加者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。二日間お疲れ様でした。

【最優秀大使コメント】

Yemen 大使 海城高等学校 島村 昂寿・土屋 哲史

今回 B 議場においてイエメン大使を務めさせていただきました。海城高校 2 年の島村昂寿です。まず、今回最優秀賞に選んでいただいた、共に議論を交わした B 議場の皆様に感謝すると共に、会議運営をしてくださった事務局の方々や先生の皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

私事ですが、僕は昨年度、オンラインで開かれた第 4 回 AJEMUN にも参加させていただいておりました。そこでは、やはりとても強い方が多く、優秀賞止まりとなり悔しい思いをしたことを今でも覚えています。

その上で、僕は今回こそは最優秀賞を取りたいという強い願いを持ってこの第 5 回 AJEMUN に臨みました。今回の議題は児童労働であり、今までの国連でも何度も議論が交わされ、それでもまだ解決することのない難しい議題です。僕はこの議題に関して、紛争地域でもあるイエメンが国際社会に対してどのような立場をとり、どのようなことを訴え、そしてどうすれば国益・国際益を最大限活かせる政策を打ち出せるのか。それをずっと考えていました。

しかし、本番ではうまくいかないことだらけでした。

まず、とにかく時間がありませんでした。まずグルーピングを決める非公式討議が開かれると、その話し合いが長引きました。決まった後に、話し合いをして提出時間までにグループ全体の議論を WP にまとめ提出するのはとても困難なことでした。結局 WP は完全には議論の内容を載せられないままの提出となってしまいました。

そして、模擬国連において予想通りに行くことは絶対にない、ということも改めて認識

させられました。元々は、僕が外交で相方の土屋が内政という形を取ろうとしていたのですが、会議の流れによっていわゆるダブル内政と呼ばれる、2 人がそれぞれ違うグループの内政を持つという形となっていました。これはよくあることだそうですが、僕は初めての経験でとても戸惑いました。

しかし結局、僕がこの文章で伝えたいのは、やはり模擬国連は楽しいということです。僕は中学 1 年生から海城中学グローバル部に入り模擬国連という活動に触れてきました。中学生の頃は全く喋れず、先輩方の喋りのうまさ、そしてオフラインならではの熱狂的な議論の雰囲気にとただただ圧倒されていました。しかし、会議を重ねるにつれて、初めて話せた、初めて外交できた、初めて内政のリーダーを取れた、そして初めて DR を提出できた。そんな達成感を感じてきました。そんな気持ちになれるのがこの模擬国連という活動の醍醐味だと思います。そして今回においては会議行動を評価していただきこんなに立派な賞をいただけたことは、とても嬉しく僕の模擬国連人生も報われたと思います。

最後にはなりますが、改めて本会議に携わってくださった皆様、ありがとうございました。このコロナという大変な状況で先の見えない中ではありますが、いつか僕が圧倒された、あの熱気の立ち込めるオフライン会議ができることを願って、これからも模擬国連の活動に関わって行きたいと思います。



B 議場の皆さん

各議場講評（C 議場）

【フロントより】

会議監督を務めました、浅野高等学校2年の坂本優樹と申します。AJEMUNには、前回の第4回大会を大使として参加させていただき、今回第5回大会を実行委員として参加させていただきました。約半年前は大使として参加した大会を、会議監督の側から経験するという非常に有意義な体験をさせていただきました。フロントならではの視点で会議を見つめることによって得られた知見を、この場をお借りして皆様に共有させていただきたく思います。

今会議は、1日目に4つのグループに分かれて話が進み、そのグループ毎で4つのWPが提出されました。そして、2日目に2グループずつコンバインし、最終的にDR.1(提出国：DPR Korea)とDR.2(提出国：Haiti)が提出され、DR.1は可決、DR.2は惜しくも否決されました。

当日会議に参加した国でPPP及びNPが未提出の国はもちろんなく、提出されたPPPも入念に作成されているものが多く、今会議に向けてリサーチを重ねた大使が多くいたことを痛感いたしました。会議当日も、グループ内のほぼ全ての大使が発言をし、交渉を重ねているグループが見受けられました。一方で、グループ内の1ヶ国のみが発言をしているグループや、数十人の大使が同じ部屋にいるにも関わらず、ほぼ無言で何の議論も行われていない時間が多いグループもありました。グループのリーダーに頼ることなく、自分自身が1国の大使として国連総会の場に立っているのだということ、そして、グループはより建設的で質の高い議論をするために形成するものだと意識して、今後の会議行動に活かしていただきたいです。そのような認識を持って会議に臨むことが、より高度なDR作成に繋がるはずです。

また、会議終了後に、フロントに対しレビューを求めてきた大使が全大使の1/4ほどいたことから、今会議での反省を活かした会議行動を志す姿勢を感じ、感銘を受けました。また、DR.2が否決された理由を、交流会時に作成されたSNSにて意見を求めている大使がいたことは非常に感動しました。C議場のフロント一同で反省会を行い、各国大使へのレビューをさせていただきました。みなさんには、会議での反省を次に繋ぐ姿勢を持って今後も模擬国連活動を続けていただきたいと思います。

今会議に参加された方は皆、「元〇〇大使」です。もしこの会議に、大使としての自覚を持って、大使になりきって参加したのなら、自分が「元〇〇大使」であるという認識からは逃れられないはずです。本やニュースで自分が大使を務めた国の名前を見てしまったら、半ば強制的に意識してしまうことでしょう。その感覚こそが、あなたが8月7,8日の2日間、このAJEMUNに真剣に参加した証なのだと、僕は思います。模擬国連活動を今後も続ける方も、ここで引退される方も、その証を胸に、様々な困難を乗り越えて行ってください。

Plus Ultra!!

今大会の開催に向けて尽力してくださった先生方、協賛各社の方々、大会の準備を共にした実行委員の皆様、そして大会に参加してくださった大使の皆様に厚くお礼申し上げます。2日間ありがとうございました。

【最優秀大使コメント】

DPR Korea 大使 海城高等学校 内田 紘輔・梶田 啓太郎

C 議場で DPR Korea 大使を務めました、海城高校二年の内田紘輔と一年の梶田啓太郎と申します。この度は最優秀大使賞という栄誉ある賞をいただき身に余る光栄に存じます。この賞を受賞できたことはひとえに大使の皆さまのご助力あってこそです。改めて深く感謝申し上げます。

今回の AJEMUN は 2 回目のオンライン開催でしたが、コロナ禍になって早 2 年、皆様はこの形式には慣れましたでしょうか。だいぶオフラインの会議に参加したことがない大使の方が多数派になりつつあるのを肌で感じています。中 1 の頃から模擬国連をしてきた身としては少し寂しくも、時代の潮流なのかと妙に納得している部分もあります。しかしながら、「モーション!」「皆さん、丸くなってください」「DR 貰ってない方、USB ください」等々、今まで先輩方が受け継いできたオフライン会議の伝統、文化を、後輩に伝えることができない歯痒さも同時に感じています。

ですが、泣き言を並べてもしょうがありませんので、不束者ですが今後の模擬国連の発展を願い、少し思う所を述べさせていただきます。

まず、今会議は特に時間にシビアな会議でした。時間を捻出する上で私は、会議冒頭のモデに注目します。近年のオンライン会議ではグルーピングに関する議論をモデで行うことが主流になっていますが、本当に最善手でしょうか。少なくとも本議場では効率的な時間運びにはならなかったと言えるでしょう。今後の会議で新たに検討されることを期待します。二点目に、明らかに同じ学校の生徒間で結託が行われていたことです。紙幅の都合上具体的な根拠は省きますが、会議中に感じた違和感は枚挙に暇がありません。オンライン会議の匿名性を踏まえれば、その行動を断定できませんが、このような不正行為が横行することは模擬国連という場への信頼を失墜させ、議論から公平性を奪います。各々が意識を改め公正な会議を作っていく必要があります。

そして最後に「勝ち負け」を重視する傾向に警鐘を鳴らしたいと思います。オンライン会議の世代になり、「国際問題について話し合う活動」から「国際問題について話し合う競技」へと変貌しつつあると感じます。模擬国連への向き合い方は人それぞれですが、その中で議論された DR の内容が軽視され始めている印象があります。DR とは全大使の、貴重な 2 日間を通した議論の答えです。勝つか負けるか、リーダー国を取れるか否か以前に、多くの大使が関わっている会議において相応しい会議行動をすべきだ、と感じている次第です。

最後になりましたが、このようなコロナ禍で AJEMUN という大規模な会議をご用意頂きました先生方、およびフロントの皆さまに深く感謝申し上げます。そして、大使の皆様、本当にお疲れ様でした。また別の議場でお会いする際はよろしくお願いいたします。



C 議場の皆さん

各議場講評 (D 議場)

【フロントより】

D 議場はほとんどの参加者が初めての会議ということではじまる前フロントで心配して話し合いなどをしていましたが、1日目に最初のスピーチで全大使が手を挙げたりグルーピングやスタンスについてのモデでもすべての大使が自分の意見をしっかりと述べていたりなど、積極性にあふれていたことが印象に残っています。しかしながら、多くの大使がモデでグルーピングの提案はあまりせず自国のスタンスや状況をメインに話していたり、その後のモデでもいくつかのブレイクアウトルームで全員黙ってしまっているところが複数見受けられたりなど、全体として議場を動かしていこうという積極性にはやや欠けていたと感じられました。最初に論点ごとに分かれた後、たくさん派生して様々な面白い提案がなされていたのはよかったのですが、上記の理由でまとまりがなくいくつかのグループが消滅してしまっていたことは非常に残念でした。結果的に1つの WP が議場に提出されたのですが、せっかくいろいろないい政策を話し合っていたのにそれらが WP に反映されているとはやや言い難いように感じましたし、いくつかのグループは時間に間に合いませんでした。2日目には多く見られた役割分担、画面共有や書き込む順序を考慮するなどの議論をスムーズに進める工夫があまり見られなかったのが理由でしょう。それに加えて、アウトオブアジェンダへの言及はありませんでしたが大幅な体裁ミス（国のアルファベット順、文末の；、動詞、枝文の書き方、スポンサー被り）や明らかな内政干渉などが見られたので、もう少し気を付けてみてください。

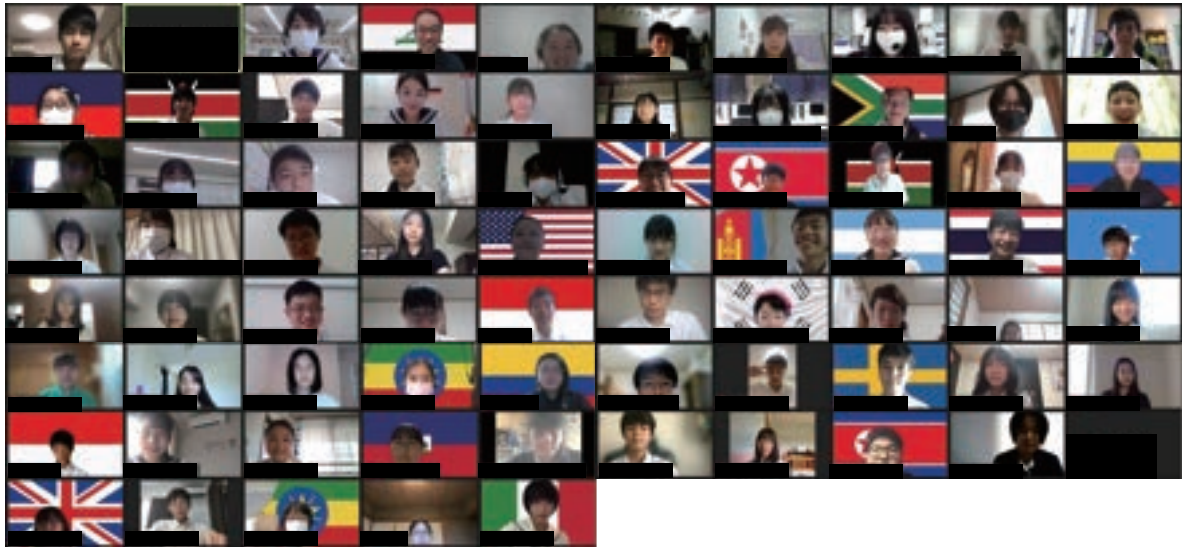
2日目は1日目と違い格段に全体的に会議として向上していました。まず、1日目に起きていた全員無言になってしまうという状況が一切なく、全ての国の大使が話し合いに参加していたように見受けられました。考えてきた政策を夜に発展させて持ってきたり、全体の議場の動きを把握し自らリードして話し合いを進めようとしたりと話し合いや議場を動かすことに積極的な大使が増えたことに加えて、議論が紛糾しそうになる前に話を戻したりほかの大使を議論からおいていくことのないように配慮したりとサポートに回る大使が増えたことで先述した1日目に起きていたような混乱が起こらなくなり議論がスムーズにそして活発になっていました。とても素晴らしいことだと思います。また、国の大使として責任を持ち自国の利益をしっかりと考えるからこそおきる対立がいくつか見られたのもとてもよかったと思います。D 議場に参加された方の多くは、後1年間ほど模擬国連に関わることができるでしょう。今回の会議をきっかけにして今後も模擬国連に関わろうとする方が多くいらっしやると、とてもうれしいです。

最後に、協賛各社の方々、先生方、実行委員の皆様そして参加して下さった大使の皆様今まで本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

【最優秀初級者大使コメント】

Ethiopia 大使 山形県立山形東高等学校 高橋 苺梨・小関 脩子

新型コロナウイルスの影響を受け、リモートでの開催となった教育模擬国連でしたが、住んでいる地域も違う人たちと考えを深め合うことができ、多くの学びを得ることができました。一番悩んだのは違う政策を持っている大使の皆様にとどのようにアポイントを取り、どのようにコミュニケーションをとっていくかという事です。これらをリモート上で円滑に行うには非常に難しかったです。また、常に変化していく議場の中で流れに押されず意見を持ち、発言していくことの難しさを痛感しました。政策をまとめていく中で他の事柄と関連づけて考えると様々な課題が次々と浮上し、完璧さを追求することは極めて大変だと感じました。この教育模擬国連では政策の穴を無くし、完璧にする事が目標なのではなく、いかに互いが納得できる政策を見つけ出し、世界をより良くするために多くの国々が一丸となり団結できるのかが大事なのだと学びました。それを知ることができた2日間は、とても貴重で大切な時間となりました。結びとなりますが、共に話し合った議場の皆様と実行委員の皆様に心から深くお礼申し上げます。



D 議場の皆さん

各議場講評（E 議場）

【フロントより】

今会議 2 日間を通して、参加した大使全員から学ぶことが多く、自身のレベルアップにつながったと思う。

会議 1 日目では、会議が始まってからWPを提出するまでの時間が短かったことや初心者であったこともあり、グルーピングにとっても手間取っていた様子が見受けられたが、自分たちで一番良いグルーピングの方法を模索し、最終的にはグルーピングすることができていた。

WP作成においても、4グループ中3グループが提出まで至るなど初級者ながら、安定した会議行動ができていたことに驚いた。WPの体裁、書き方などは乱れていた部分はあったが、DR作成の段階では概ね改善されていたことに感心した。

また、「モデ」や「アンモデ」などの単語が分からない大使が散見され、随所毎に説明を行わなければならないといった、初級者議場ならではのフロントの難しさも痛感した。

会議 2 日目では、会議 1 日目に提出されたWPの読み込みをしっかりと行っていたため質疑応答もしっかりとできていた様子が見られ、序盤からDR作成に向けて意欲的に議論を活発に行っていた。また、多くの大使がコンバインに向けて情報共有を行っていた印象を受けた。

そして、出来るだけ多くの大使からオリジナリティあふれる政策を提案してもらい、随時説明を行ったり、質問を受け付ける時間をとったりしながら、参加しているすべての国の大使が納得できるように全力を尽くしている姿も見受けられ、とても嬉しく思った。

PPP などから自国のリサーチを行なっていることは十分に確認できたが、やはり初級者であるがゆえ、国連として DR に含めることができる文言や逆に国連総会では提案できない内容などの模擬国連に対する知識がもう少しあればさらに良い会議行動と DR 作成ができたように感じる。フロントからも、事前に模擬国連のマニュアルを読むことを推奨したりなど初心者に対するサポートがもう少し事前にできたかもしれない。また、モデでの発言はかなり積極的に行えていたので、これからはアンモデでも活躍できるように、経験を積み重ねていくことで、各自にあった会議行動が見つけられると思う。

外交内政の役回りを分け、他国の政策を判断できるようになるとさらなる活躍が見込めるだろう。

最終的に提出された DR がコンセンサスで可決されたことは大変素晴らしいことだと思う。

交流会では、参加した皆さんから楽しかったという声がたくさん聞こえ、運営としては嬉しい限りだった。

参加した皆さんが、今大会をきっかけに様々な大会を経験し、「もぎこっかー」として今後も模擬国連に参加し続けてくだされば良いと思う。

【最優秀初級者大使コメント】

Norway 大使 松本秀峰中等教育学校 村木 裕太・佐藤 伊吹

この度は第 5 回全国高校教育模擬国連大会において最優秀賞をいただきありがとうございました。長野県から模擬国連に参加する学校が少ない中、松本秀峰中等教育学校の卒業生の助けもあり同校から三組同時入賞できたことをとても嬉しく思います。今回、私は関東圏と長野県の模擬国連の情報格差や参加機会の差を強く実感したこともあり、これからの高校生活は長野県における模擬国連の普及に尽力したいと思いました。

初めての参加ということもあり色々と至らない点もありましたが、ペアと協力してこのような賞をいただく事ができ、嬉しい限りです。児童労働というテーマは自分にとって身近なものでは無いため、この問題を深く考えられたこと、また、学校も学年も違う人達と考え合うことができたことはとても良い経験になったと思います。最後に、今大会でお世話になったフロントの皆さん、先生方、各国大使の皆さんに感謝を申し上げます。



E 議場の皆さん

各議場講評（F 議場）

【フロントより】

今会議 2 日間を通して、参加した大使全員の成長を感じることができた。

会議 1 日目では、会議が始まってから WP を提出するまでの時間が短かったことや初心者であったこともあり、グルーピングにとっても手間取っていた様子が見受けられた。また、「モデ」や「アンモデ」などの単語が分からない大使が散見され、随所毎に説明を行わなければならないといった、初級者議場ならではのフロントの難しさも痛感した。その後何とかグループが大まかにでき、WP 作成に向けて議論が交わされていたが、配布した Google ドキュメントでの提出や提出期限を過ぎた Word ファイルの提出などがあり、結果的に受理した WP は 0 本となった。通常 WP を基に DR を作成するため、WP がなければ DR を作成することはできないが、今回だけ認める処置をとった。極めて特異な場合だったため、タイムスケジューリングのために各国大使から意見を述べてもらうモデやブレイクアウトルーム毎の意見共有を行うモデを行い、初心者スキルアップに努めた。

会議 2 日目では、会議 1 日目に行ったタイムスケジューリングのためのモデや会議に慣れてきたこともあり、序盤から DR 作成に向けて意欲的に議論を活発に行っていた。会議を再開してから DR を 1 本にしようという行動が目立ち、多くの大使がコンバインに向けて情報共有を行っていた印象を受けた。また、出来るだけ多くの大使からオリジナリティあふれる政策を提案してもらい、随時説明を行ったり、質問を受け付ける時間をとったり

しながら、参加しているすべての国の大使が納得できるように全力を尽くしている姿も見受けられ、とても嬉しく思った。一方で、内政干渉になりうる発言や今会議の立場からは述べるできないことについて触れているものがあり、事前準備の不足を感じる部分もあったように感じる。最終的に提出されたDRは1本で、WPでの失敗を生かし提出期限には余裕をもって提出され、無事可決された。今後の会議では、時間管理の徹底や事前準備を丹念に行うことの2つを大切にしていけたらと思う。

参加してくださった大使の皆さんと創り上げた今大会は、参加人数が多く、年に2回ある公式大会の内の1つである。今大会での経験は、今後の模擬国連活動に関わらず、日常生活にも生きてくるだろう。参加した皆さんが、今大会をきっかけに様々な大会を経験し、「もぎこっかー」として今後も模擬国連に参加し続けてくだされば良いと思う。

【最優秀初級者大使コメント】

France 大使 東京女学館高等学校 神作 真由・岡本 璃央

AJEMUNに参加させていただき、全ての関係者の皆さんに感謝致します。私たちはフランス大使として今回が2回目の参加となりましたが、前回よりも濃く、有意義な時間が過ごせたと深く実感しています。まだまだ分からない事が多かった中、交渉・メモ回しなどの様々なスキルを活用し、大使の皆さんとコンセンサスという大きな目標に向かって走り抜けることができました。前大会では、自国の意見を主張することができず悔しい思いをしましたが、その思いをバネに、今大会では最後まで自国のスタンスを主張し、大使としての役割をしっかりと果たせたと思います。また、私達が他国の大使を牽引する場面では、先進国の立場から政策を考えるだけではなく、途上国の問題や、思いを丁寧に汲み取り、DRに反映させました。模擬国連は単なる国連の模倣ではなく、国連の理想のあり方を追求する場所だと知り、私達も多角的な視野を持つ大使を目指して、向上していきたいと思いました。



F 議場の皆さん

各議場講評（G 議場）

【フロントより】

G 議場は初心者が多い議場であったため、議論が円滑に進むか、WP や DR が提出されるか不安になりながらも当日を迎えました。しかしながら、私たちの思った以上に大使の皆さんが積極的に取り組む姿を見て、フロント一同安心感を覚えました。ブレイクアウトルームに移動した後も活発に議論を交わし、国益を守ろうとしていた大使も多く見受けられました。それと同時に、コンバインを目指すため頻繁に外交会議や質問や説明を求めに行く姿勢は、会議のレベルを引き上げた一つの要因だと思います。コンバインは方向性と時間の関係上断念せざるを得ませんでした。コンバインや交渉の難しさを知って頂く良い機会になっていればなと思いました。そして、提出された DR は二本とも初級者議場にもかかわらず、内容が濃いものだったと思います。ただ、その DR は本当に国益を守れているのでしょうか？今会議が終わった後、もう一度 DR を読み直してみたいです。

また、今会議では、モデをあまり取っていませんでした。モデは議場全体を把握したり、アンモデでの話の内容をまとめることが出来たりとリーダー国をやっている、または狙っていた大使に是非とも取ってほしいものでした。具体的な例として、今会議の最初はアンモデからスタートしました。大使の皆さんの中には、各国の意見を平等に聞けないと思った方もいるのではないのでしょうか。モデはそういった場面で使用してほしいなと思います。

話は変わりますが、良い会議を作る上で「質問をする」ことも大切ですが、「相手の話を聞くこと」も同じくらい大切です。今回の会議では、議論が白熱してしまったからかアンモデで他の大使さんが発言している際に、かぶせる形で話始めるなどの行為が見られました。時間がない中での議論は焦りもありますが、他の大使さんの意見を真摯に聞く姿勢は、きっと誰かが評価してくれそうです。これは私が模擬国連を始めたときに一番に習ったことです。オンライン会議でも対面の会議でもこのことを忘れないでいてくれたらと思います。

今回 G 議場に参加した方は来年も模擬国連活動ができる方が多いと思います。今会議や他の会議を通じて模擬国連活動を楽しんでいると思って頂ければ嬉しいです。そして是非、模擬国連を語り合える友達をたくさん作ってください。

最後になりますが、G 議場の大使の皆様にはたくさんのご迷惑をおかけしました。申し訳ありません。顧問の先生方、事務局の方々、協賛各社の方々、三か月以上に渡って準備した実行委員の仲間そして今大会に参加して下さった大使の皆様はこの場で御礼を申し上げます。二日間本当にお疲れさまでした、そしてありがとうございました！

【最優秀初級者大使コメント】

Afghanistan 大使 逗子開成高等学校 佐藤 司悠・菊池 星南

初めて学校をまたいだ大会に参加させていただき、少々気後れしておりましたが、最後まで自国の主張を保て、また賞まで頂けたことは大変嬉しく思っております。会議の直前

にペアの代表を決めていなかったことに気づき、とっさに相方に譲って（押し付けて）しまいまして、分担して交渉へ赴くようなことがございましたので、結局相方に任せっきりでした。傍聴ばかりでしたので、僕の受賞はバツが悪いような気がします。

僕達は今回が初めての模擬国連の大会で他校の生徒さんと討議した経験もなかったので本番が始まる前から不安でしたが、出場経験のある先輩たちに先導してもらって無事に良い会議をすることができ、最優秀初級者賞をいただくことが出来ました。今回の大会に参加した事で発展途上国の児童労働の現状について深く考える良い機会となりました。今回の経験を活かして今後も模擬国連の大会を通じて国際問題について理解を深めて行きたいと思います。

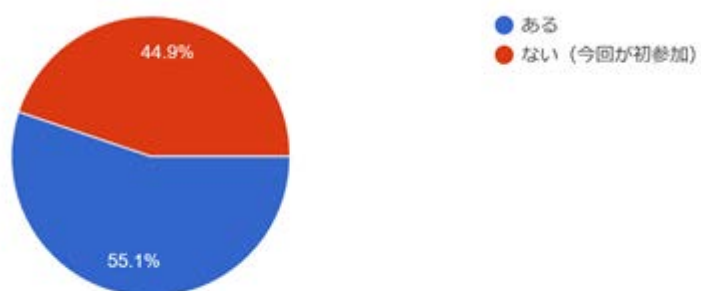


G 議場の皆さん

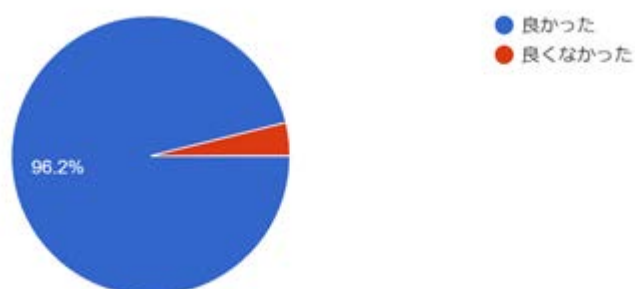
参加者アンケート集計結果

データ編

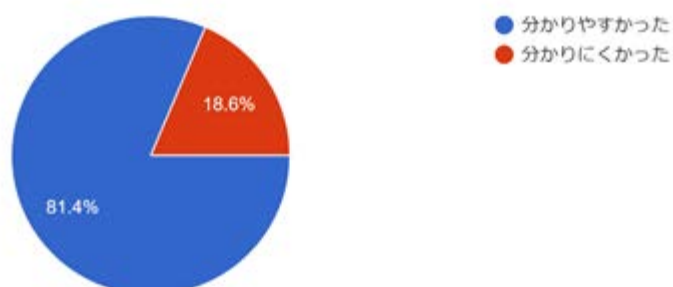
Q1 これまで、模擬国連に参加したことはありますか。



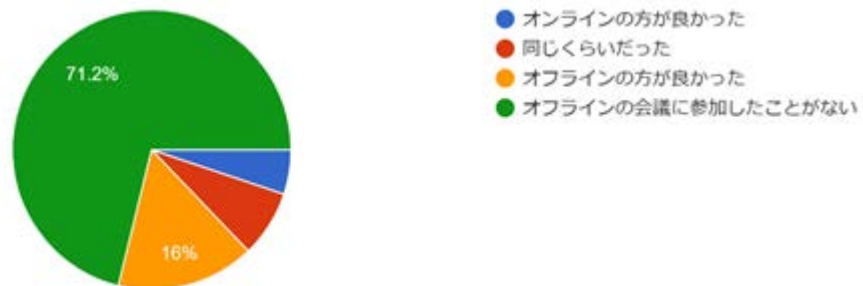
Q2 今大会に参加してよかったですか。



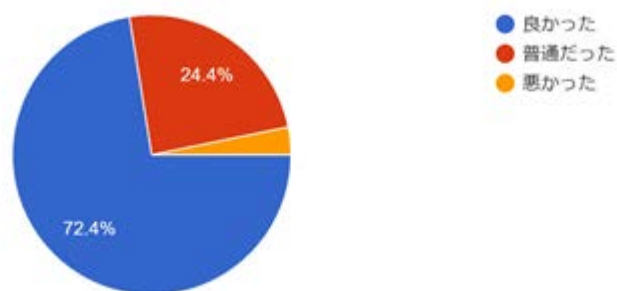
Q3 大会資料(BG,会議細則,HP の情報など)は分かりやすかったですか。



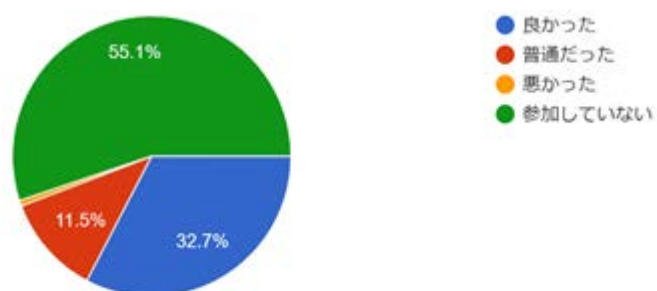
Q4 今大会も AJEMUN はオンラインで行われましたが、オフラインで行われる会議と比べてどうでしたか。



Q5 今大会の運営は高校生が実行委員となって行われていますが、実行委員の運営はどうでしたか。



Q6 交流会はどうでしたか。



アンケートに寄せられた意見（一部抜粋）編

ーオンライン開催について

- ・動議の募集や賛成反対の投票をチャットで行うという方式は、(オフラインの経験がありませんのであくまで予想との比較ですが、)よりスムーズに進めることが出来てとてもいい点だと思いました。
- ・画面共有が楽であった。また、政策共有が簡単であった。
- ・zoom を使い慣れていないと、置いていかれることがある。仕方がないことだが、作業環境によってはラグがひどかった。通信が切れてしまった場合の措置などもう少し必要だと考える。
- ・話す大使と話さない大使が生まれてしまったことと、WP や DR などの共有がネット環境の関係で難しいときがあったことです。

ー今大会の感想など

- ・会議中に発言が出来なかったという自己課題は沢山残ったが、それを解決しようという意志が固まった。今回の会議に積極的に参加していた大使から動きを学び、次の会議では会議をリードしていく大使になりたい。
- ・自分の見逃しの可能性もありますが、WP や DR といった語彙の説明を会議細則にて説明して頂く、もしくは詳しい説明をしたものの URL を貼って頂けるとありがたかったなと思います。今回の模擬国連を通して、世界についてより学びたいと思いましたし、国連の流れもある程度わかったのでまたやってみたいと思いました。
- ・初心者にとっては、わかりにくい部分が多く困る場面が多かった。私の場合模擬国連に詳しい方が周りにいないので、事前にルール説明会などを開いて欲しい。
- ・今回は人生で4回目の模擬国連でした。今まで以上に沢山話せて、自分たちの国の意見を尊重し、本音を言うことができたので良かったです。
- ・初日は積極的に発言することができませんでしたでしたが、だんだんと意見を出していけるようになりました。参加するまでは自分の学校の中のことしか知りませんでした。全国から来た高校生と関わることができ良かったです。
- ・知らないことだらけだった国を担当させていただき、親しみが湧いたと共に、なかなか考えることが少ない他国について今までで1番考えたと思います。
- ・はじめての経験でとても緊張しました。同じ議場の大使の方々の知識量の多さや発言力に圧倒され、良い刺激を与えられました。発言することが苦手なので自分の出来る限り発言しようと努めました。他の大使の方々に比べればまだまだだったので、自分ももっとみんなに近づきたいなと思いました。コミュニケーション能力の高さにも驚きました。
- ・AJEMUN の模擬国連への参加ははじめてだったのですが、多くの方が積極的に話せていて、とても良い会議だったと感じた。また、みんなほかの人の意見を尊重し、あまりしゃべれていない大使にも気をつけてくれたので、会議の雰囲気としてもよかったのではないと思う。また、フロントの方々も進行がスムーズで、同じ高校生だと思えば、とてもすごいと感じた。自分もいつかはフロント入りを目指して、これからの模擬国連も頑張っていきたいと思います。

大会事務局長より

行動変容を！～コロナ禍の模擬コッカーのみなさんへ

第5回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）大会事務局長
公文国際学園中高等部 米山 宏

第5回 AJEMUN に参加いただいた大使のみなさん、第4回に引き続きオンラインでの大会となった今大会はいかがだったでしょうか？新型コロナウイルスの感染状況によって、募集段階からオンラインでの実施を謳っていましたが、実は運営に携わる実行委員生徒については、一か所に集合して運営を司る予定でいました。ただそれすらも更なる感染の悪化により叶わなくなり、大使のみなさん同様にオンラインで参加・運営せざるを得なくなりました。ただ心配はしていませんでした。事前段階における大使受付などの事務作業、当日の議事進行の円滑さ、そして大使による議論の盛り上がり、その他どれをとっても実行委員と大使のみなさん高校生の力を結集すれば大会には何の支障もないと信じていたからです。そして、結果はご承知の通り、どの議場でも熱い議論が展開され想定以上に順調に運営された大会になりました。これらはひとえに参加大使のみなさんと実行委員の努力の賜物だと感じています。本当にお疲れ様でした。またありがとうございました。

さて、今年の大会の議題は「児童労働」でした。最初は「？」となった人が多いのではないのでしょうか？それでいいのです。今まで知らなかったことを知る。関心を持つ。それこそが模擬国連の意義、醍醐味です。もし、今大会の議題が「児童労働」ではなかったら、みなさんはこの問題について深く考える機会があったのでしょうか？それでも当然のことですが、仮に他の議題だったら「児童労働」については知れなかったが、その「X」という議題には精通するようになったかもしれません。要するにキリがないのです。そしてそれが今の地球、国際社会の現状です。この課題山積の世の中で模擬国連のもつ役割の一端が理解いただけたと思います。それでは、リサーチして、議論して、決議して、それで終わっていいのでしょうか？何のためのリサーチ、議論、決議だったのでしょうか？ぜひ大会が終わっても満足せずに、次のステップに歩みだして欲しいのです。このコロナ禍で我々は行動変容を求められました。今まで当たり前に行ってきたことを「自粛してください」と言われているのです。やってきたことを行わないだけなら確かにそこには我慢が強いられますが容易なはずで、しかし、模擬コッカーに求められているのはそのような負（マイナス）の行動変容ではなく、正（プラス）の行動変容です。もちろんハードルは高くなりますが、ぜひアクションを起こして欲しい。自分たちが参加した数々の模擬国連の議題の中で、自分が本当に何とかしたいと思った課題についてぜひ解決への道のりを実際に探ってください。それこそが本当の意味での模擬国連の意義であるし、この教育プログラムを推進している先生方の真の狙いなのです。そうしたみなさんの行動変容が、実際に地球的課題解決のきっかけとなったなら、それは大袈裟かもしれませんが「模擬国連」という教育プログラムがノーベル平和賞を受賞するほどの価値があることだと思われるのです。

ZOOMの使用にも慣れ、オンラインでの大会に違和感を感じなくなっているかもしれません。対面の大会とオンラインの大会、どちらがいいかと一概には言い切れません。ただ、このような状況であっても私が今大会の当日パンフレットに書いたように、「できること」

を常に模索して継続することが重要だと考えています。ぜひ模擬コッカーとして、上に記した模擬国連の意義を達成するためにも「MUNを止めるな」の精神を貫いていてください。

最後にこの場をお借りして、大会にご協力いただいたすべてのみなさま、協賛・後援・助成いただいた企業・団体みなさま方に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。これをもって今年の私の大会事務局長としての挨拶に代えさせていただきます。

参加校一覧

浅野高等学校	水城高等学校
郁文館グローバル高等学校	逗子開成高等学校
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	清教学園高等学校
市川高等学校	成蹊高等学校
茨城県立竹園高等学校	聖心女子学院高等科
江戸川学園取手高等学校	清泉女学院高等学校
大分高等学校	専修大学松戸高等学校
大谷高等学校	玉川学園高等部
大妻高等学校	中央大学杉並高等学校
大妻中野高等学校	田園調布学園高等部
海城高等学校	東京女学館高等学校
開智高等学校	東京都市大学高等学校
開智未来高等学校	徳島県立城ノ内高等学校
海陽中等教育学校	徳島文理高等学校
鹿児島情報高等学校	名古屋高等学校
神奈川県立希望ヶ丘高等学校	灘高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校	新潟県立直江津中等教育学校
岐阜県立岐阜高等学校	西大和学園高等学校
熊本県立熊本農業高等学校	福岡県立玄界高等学校
公文国際学園高等部	不二聖心女子学院高等学校
久留米大学附設高等学校	富士見丘高等学校
群馬県立中央中等教育学校	富士見高等学校
慶應義塾湘南藤沢高等部	武南高等学校
晃華学園高等学校	北海道札幌国際情報高等学校
工学院大学附属高等学校	本郷高等学校
佼成学園高等学校	松商学園高等学校
佼成学園女子高等学校	松本秀峰中等教育学校
小林聖心女子学院高等学校	三田国際学園高等学校
駒場東邦高等学校	三輪田学園高等学校
酒田南高等学校	武庫川女子大学附属高等学校
札幌日本大学高等学校	茗溪学園高等学校
渋谷教育学園渋谷高等学校	八千代松陰高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校	山形県立山形東高等学校
十文字高等学校	横浜翠陵高等学校
順天高等学校	ラ・サール高等学校
頌栄女子学院高等学校	立教池袋高等学校
昭和女子大学附属昭和高等学校	立教女学院高等学校
市立札幌開成中等教育学校	立命館高等学校

計 76 校

大会実行委員一覧

【実行委員長】

高槻 俊輔（渋谷教育学園渋谷高等学校）

【フロントセクション】

★阿野 咲（大妻高等学校）
中島 大雅（海陽中等教育学校）
塚本 杏奈（岐阜県立岐阜高等学校）
菊地 咲楽（公文国際学園高等部）
栗田 稚子（江戸川学園取手高等学校）
五十嵐 葉乃（江戸川学園取手高等学校）
江口 花音（渋谷教育学園渋谷高等学校）
佐野 智亮（浅野高等学校）
坂本 優樹（浅野高等学校）
山本 晴菜（大妻高等学校）
山崎 純礼（茨城県立竹園高等学校）
庄司 弥生（茗溪学園高等学校）
古川 美月（頌栄女子学院高等学校）
佐藤 優（三田国際学園高等学校）
藤村 哲（茗溪学園高等学校）

【運営受付セクション】

★西島 樹（浅野高等学校）
渡辺 凜（岐阜県立岐阜高等学校）
坂本 七海（公文国際学園高等部）
藤原 凜咲（公文国際学園高等部）
吉田 桃子（三輪田学園高等学校）
田上 まゆ（三輪田学園高等学校）
亀田 萌菜美（茨城県立竹園高等学校）
西村 京香（茨城県立竹園高等学校）

【情報テクニカルセクション】

★佐島 丹久朗（玉川学園高等部）
市川 友唯（茗溪学園高等学校）

★はセクションリーダー



実行委員と大会役員の皆さん

大会役員一覧

【大会事務局長】

米山 宏（公文国際学園中等部・高等部）

【フロントセクション】

関 孝平（大妻中学高等学校）

岡 祐司（渋谷教育学園渋谷中学高等学校）

齊藤 智晃（渋谷教育学園幕張中学高等学校）

室崎 摂（渋谷教育学園渋谷中学高等学校）

飯島 裕希（頌栄女子学院中学校・高等学校）

竹林 和彦（早稲田実業学校）

【運営受付セクション】

宮坂 武志（浅野中学・高等学校）

藤山 由彦（駒場東邦中学校・高等学校）

内田 美穂（三輪田学園中学校・高等学校）

【情報テクニカルセクション】

三浦 佳奈（富士見中学校高等学校）

後藤 芳文（玉川学園高等部・中学部）

【大会事務局】

梶谷 菜々美（早稲田大学 3 年）

粕谷 健翔（慶應義塾大学 2 年）

主催・後援・助成・協賛

【主催】

全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

【後援】

外務省

文部科学省

日本私立中学高等学校連合会

全国都道府県教育委員会連合会

東京都教育委員会

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

国連広報センター

認定 NPO 法人 国連ウィメン日本協会

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター

（順不同）

【助成】

公益財団法人 公文国際奨学財団

【協賛】

株式会社 第一学習社

実教出版株式会社

株式会社 公文教育研究会 グローバル・コミュニケーション&テストイング

東京書籍株式会社

株式会社 近畿日本ツーリスト首都圏 横浜教育旅行支店

学校法人 河合塾

学校法人 河合塾みらいふ

（順不同）

次年度大会のご案内

次年度の第6回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）についてご案内いたします。
一同東京に集まって開催することを予定しております。皆さま是非ご参加ください。

開催日時：2022年8月6日（土）、7日（日）

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

※予定は変更になる場合があります。

今後の状況によっては、第5回大会同様オンラインでの開催になる可能性もあります。

